PLA - 89 - 13 8 / 1 / 89

# 1 GeV リ ニ ア ッ ク 検 討 資 料

# 1 GeV LINAC DESIGN NOTE

題目 (TITLE)	432 MHz DTL のパラメーターについて
著者 (AUTHOR	) 加藤隆夫
概要 (ABSTRAG	CT)
	リフトチューブの基本寸法とタンク内径の組み合わせをつくり、夫々ついてPARMILA を走らせて比較検討用の資料を作った。

## **KEY WORDS:**

Ion source, RFQ, DTL, CCL, Magnet, Monitor, Beam Dynamics, Transport, Vacuum, Cooling Klystron, Low level rf, High power rf, Modulator Control, Operation, Radiation, Others

## 432 MHz DTL のパラメーターについて

effective shunt impedance をどの様な条件のもとで最適化するかが、問題となる。

## 入射部タンク (3 MeV -- 10 MeV)

表面最大電場を Kilpatrick limit の 75 % 以下に押える。 Fig.1 にタンク直径とドリフトチューブ直径を変化させる時の、空洞入射部の表面最大電場を示す。 Fig.2 に表面最大電場のエネルギー依存性を示す。 これより、タンク直径 440 mm とドリフトチューブ直径 80 mm が決まる。

effective shunt impedance を Fig.3 に示すが、上の組合せは効率の点でも良い結果を示している。ドリフトチューブの corner radius は  $10 \, \text{mm}$  に選んでいる。これは、早めに大きくする事が望ましいが、ビームエネルギーが  $10 \, \text{MeV}$  までは一定とする。出力エネルギーは  $10 \, \text{MeV}$  を中心にして多少の変化は許される。これは、クライストロンの出力や、beam dynamics と関連させて決める値である。

### 次のタンク

corner radius を 20 mm とすれば、タンク直径 440 mm, 420 mm, ドリフトチューブ直径 80 mm, 70 mm を使っていくつかの組合せが考えられる。

組合せタイプ	A	В	C	D	
10 - 20 MeV	(44, 8)	(44, 8)	(44, 8)	(44, 8)	
20 - 40 NeV	(44, 8)	(44, 8)	(44, 7)	(44, 7)	
40 -150 MeV	(42, 7)	(44, 8)	(42, 7)	(44, 7)	
計算結果					
Length	77.3	85.34	77.01	82.21	m
cell number	346	374	344	362	
Pc	9.19	9.64	9.13	9.03	MW

Pbeam = 20 mA X 147 MV = 2.94 MW

Pt = Pc + Pbeam

#### details

Figs.4 - 11 にそれぞれのタイプの effective shunt impedance と 表面最大電場を示す。

Aータイプを選んだ時の概要を以下に示す。

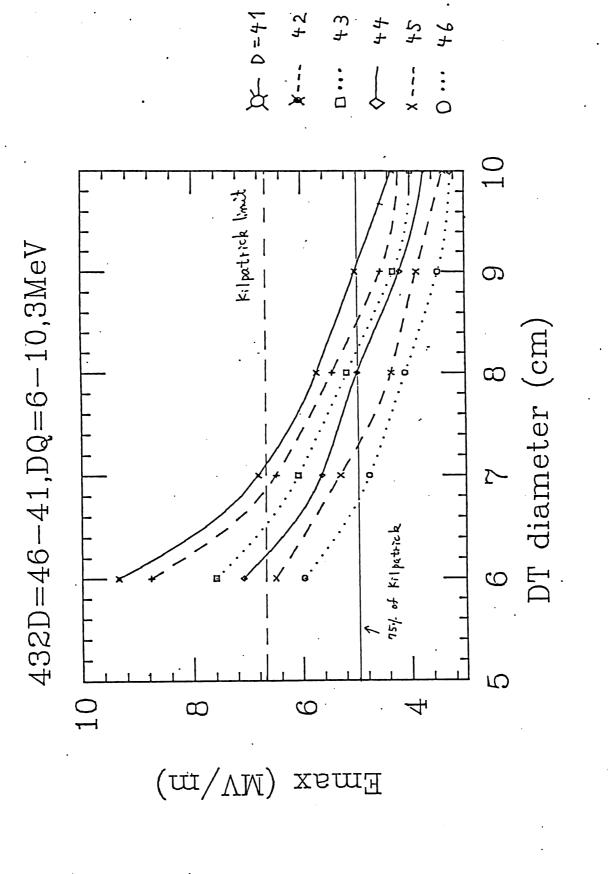
第一段 3 MeV - 10 MeV, 3.19 m, 41 cells, Pt = 0.474 MW klystron X 1

第二段 10 MeV - 40 MeV, 13.82 m, 92 cells, Pt = 2.055 MW

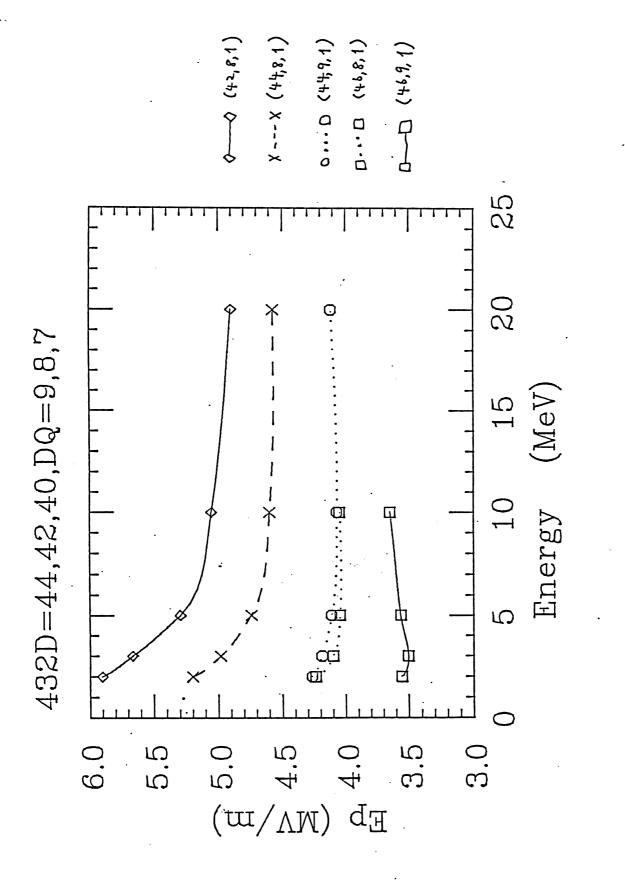
- 1) .7.05 m, .54 cells, .94 Pt = .1.05 MW
- 2) 6.77 m, 38 cells, Pt = 1.01 MW klystron X 2

第三段 40 MeV -150 MeV, 60.3 m, 213 cells, Pt = 9.6 MW klystron X 10

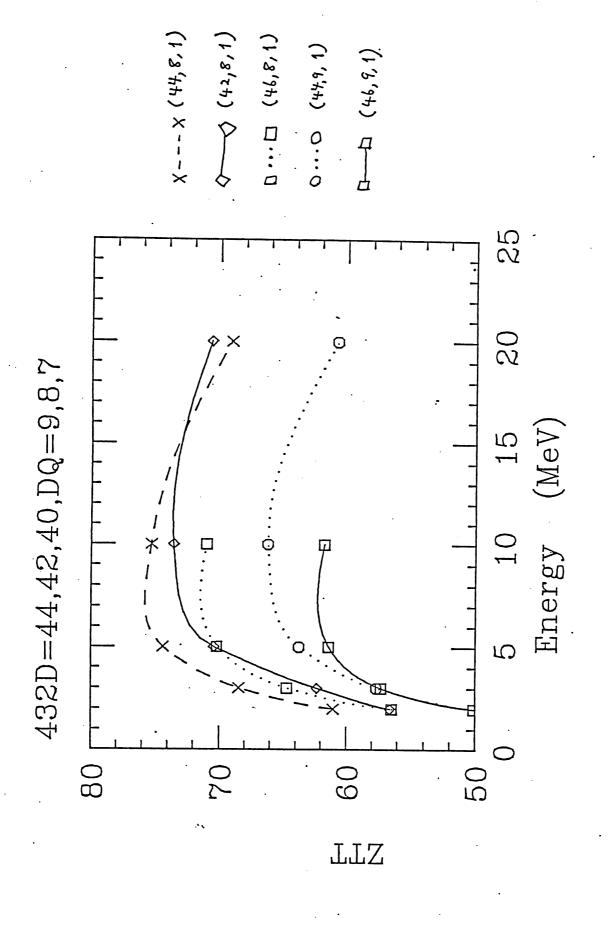
total number of klystron = 13



<u>1</u> <u>1</u> <u>1</u> <u>1</u>

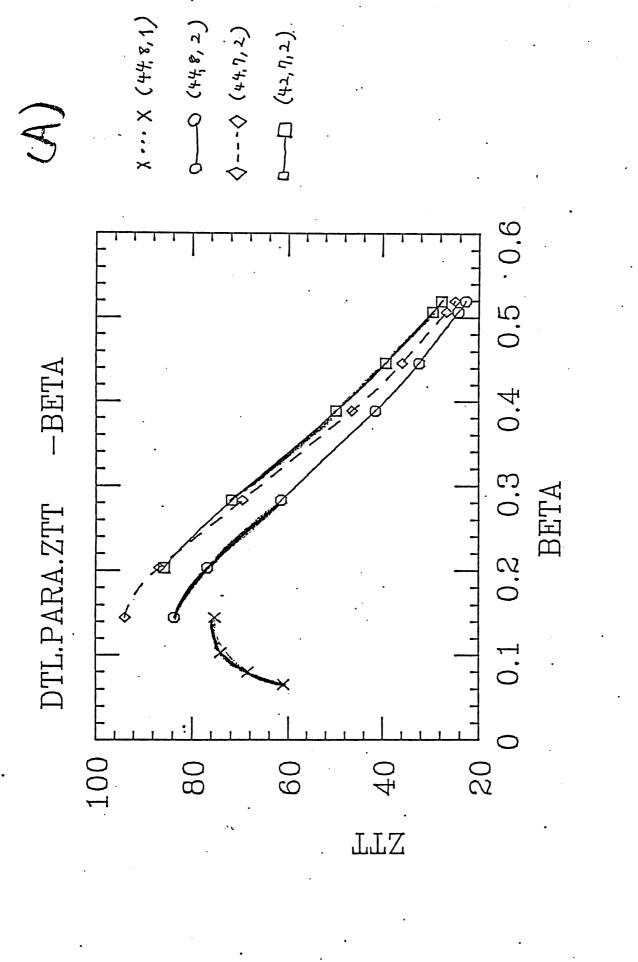


F13.2

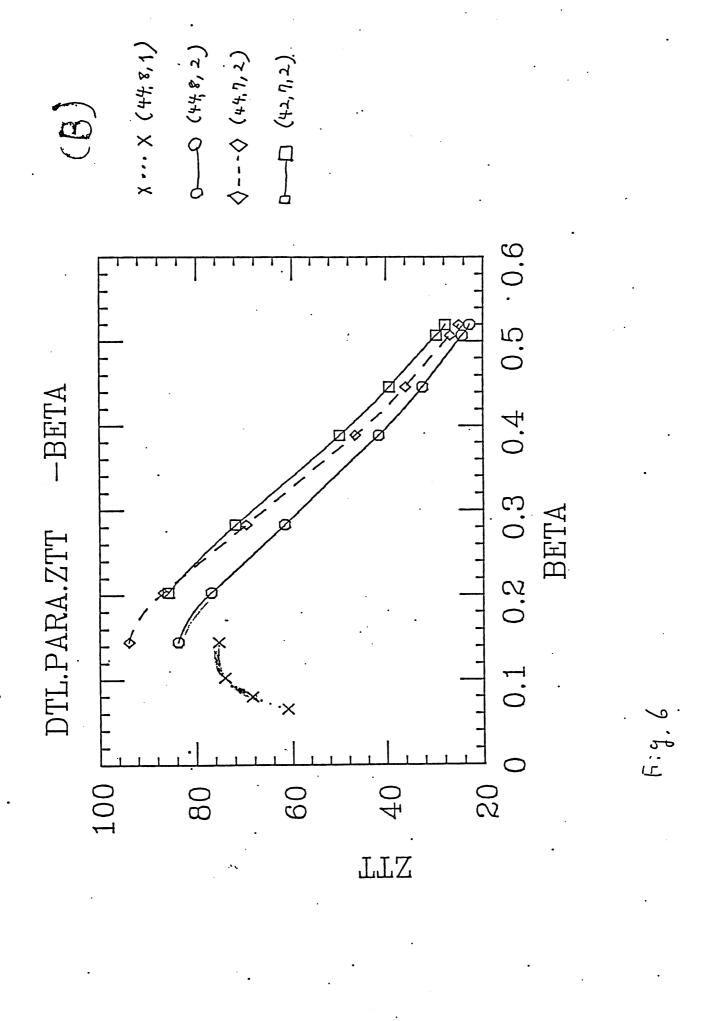


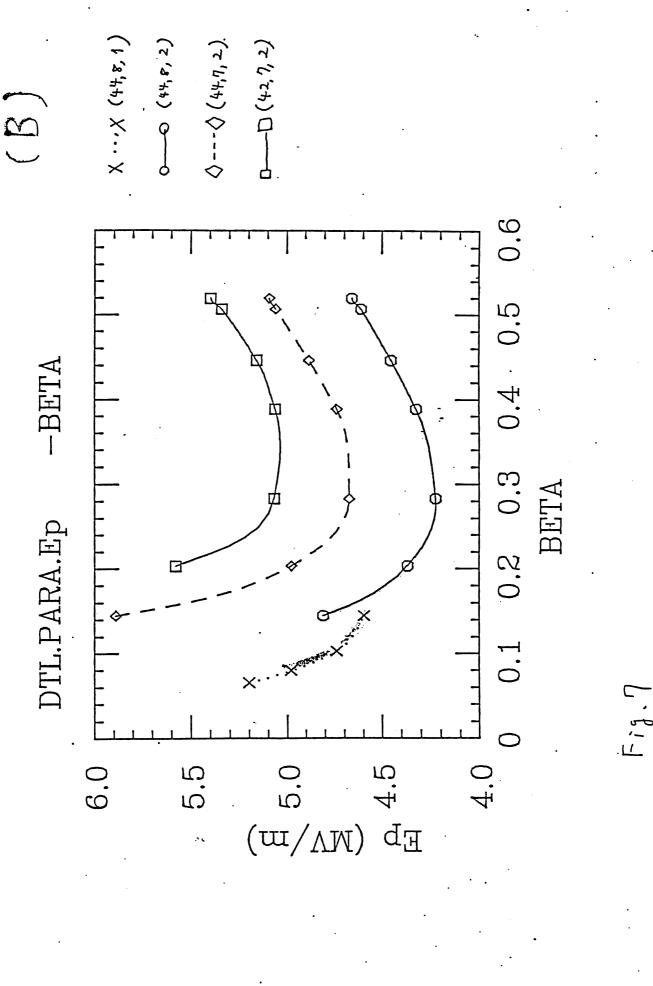
. . ...

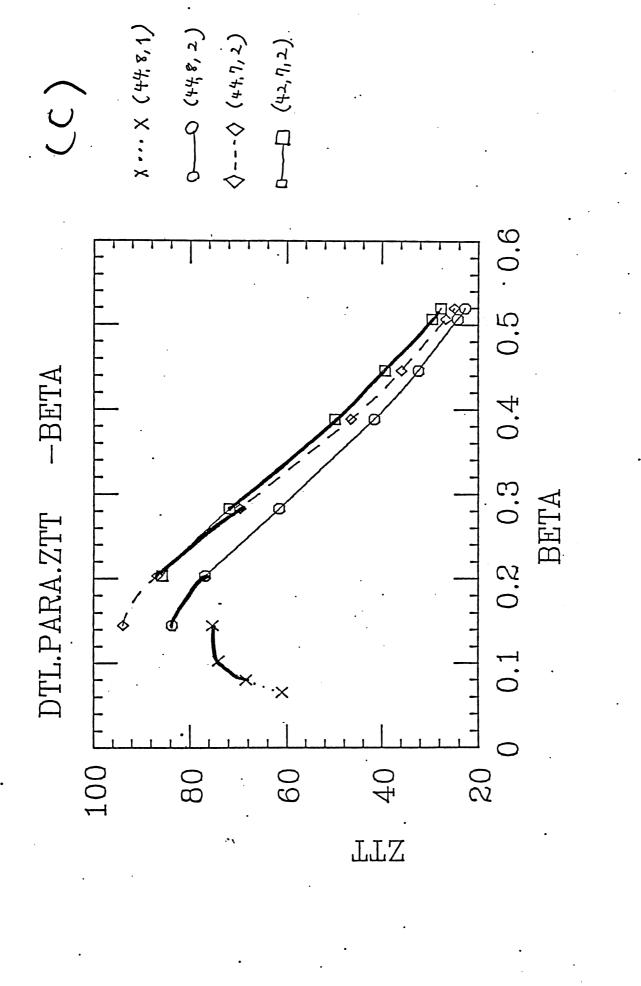
户:9.4



F :9.5







8 · ه. ۲

